

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		もりやアヤメ祭り事業	担当課	経済課
総合計画	政策	活力にあふれるまち	計画期間	平成 5年度～
	施策	集客資源の創出と充実	種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催	市民協働	
予算科目コード		01-070102-08 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 四季の里公園内にある約38,800株のハナショウブ、アヤメの開花時期に「もりやアヤメ祭り」として期間を設け、来園者に鑑賞してもらう。
四季の里公園の整備当時から、景観の美しい公園や花々を市内外の人々に観賞してもらうために平成5年から開始された。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
ハナショウブ、アヤメの開花時期を利用して、イベント等を開催し、守谷のPRを行うことにより、観光振興を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいの創出に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
集客力の高いイベントは、守谷駅前で開催していることから、もりやアヤメ祭りは観賞イベントとしており、平成29年度は、フリーマーケットを実施せず、観賞のみのイベントとして実施した。来場者数は、フリーマーケット開催の有無に関わらず、ほとんど変化が見られなかった。	実行委員会及び関係課との協議を行い、平成30年は廃止する。 11～12月 協議・調整
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
四季の里公園のアヤメは、知名度も上がり、イベントを開催に関わらず多くの方が訪れることから、観賞できる公園として管理し、アヤメ祭り事業は廃止する。 実行委員会で実施しているため、協議する。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	イベント開催としての事業を廃止するため

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
来園者には静かな環境でゆっくりと花々を観て楽しんでいただくため、フリーマーケット等のイベントの廃止を検討する。	観賞イベントとして実施するため、フリーマーケット等の開催をとりやめ、来場者数を調査した。 結果として、イベント等の開催が来場者数に影響がないため、公園の管理者と協議し、次年度以降のイベント廃止を実行委員会で決定した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
イベント開催時来園者（人）	900.00	2,931.00	2,444.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	来場者数調査により、フリーマーケット開催の有無に関わらず目標値並みの前年並みの来場者が訪れており、観光振興は図られた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☒ 廃止・終了	四季の里公園のアヤメは、イベント開催に関わらず多くの方々が訪れており、実行委員会で協議をした結果も廃止することとなった。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	673	676	680	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	673	676	680	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	304.00	279.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,246	1,144	0	0
トータルコスト		673	1,922	1,824	0	0

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		きらめき守谷夢彩都フェスタ支援事業		担当課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間
	施策	集客資源の創出と充実		種別
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働
予算科目コード		01-070102-09 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 毎年9月下旬の2日間、守谷駅西口駅前広場を会場として実行委員会により開催するイベントを負担金により支援する。 会場では、市内中学校の吹奏楽演奏、和太鼓、よさこいソーラン踊りなどのステージ、お楽しみ抽選会等の催しのほか、地元特産物や地域産業を支える企業・組合等の出展ブース、ビアステーションなど多彩なイベントを実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
今年度は70,700人の来場者で賑わったが，来場者数の増加により，時間帯によっては，会場内に人々があふれたため，会場内の動線確保が必要。	平成29年度 11月 今年度の反省，課題整理 3月 商工会担当者と打ち合わせし，具体的な対応策を作成 平成30年度 6月 第1回実行委員会 対応策の承認 8月 第2回実行委員会 催事の配置，役割分担について協議 9月 イベント開催
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
会場内の動線確保について，実行委員会で協議する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	負担金による支援事業であるため，現状維持とする。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
負担金による支援事業であるため、現状維持。	負担金の交付により事業支援を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
来場者数（人）	87,000.00	54,800.00	70,700.00	72,000.00	75,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	2日間天候に恵まれ、前年に比べ来場者が増加した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	地域産業を支える商工業者や市民活動発表PRの場として開催しているイベントであるため、継続して支援する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,699	2,699	2,699	2,699	2,699
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,699	2,699	2,699
	一般財源	2,699	2,699	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	474.00	421.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,943	1,726	0	0
トータルコスト		2,699	4,642	4,425	2,699	2,699

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		MOCOフェスタ支援事業		担当課	経済課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間	平成26年度～
	施策	集客資源の創出と充実		種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-070102-11 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 毎年5月中旬の2日間に守谷駅西口駅前広場を会場とし、企業とボランティア主体の実行委員会が開催するイベントを負担金により支援する。 市内中学校の吹奏楽演奏、踊りなどのステージ、茨城県内の自治体や守谷市内企業・市民団体のPR、販売等の出店ブースなどのイベントを実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
実行委員会の自主財源による運営への移行が課題。	平成30年1月～ 運営方法の見直し協議 実行委員会
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
運営方法，実施内容の見直しについて協議する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	市関連費用ブース等に対しての負担金による支援事業であるため，現状維持とする。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
実行委員会の自主財源による運営への移行	自主財源による運営に向け協議した結果、補助金を廃止し、市関連ブース費用等に対する負担金の交付をした。 これに伴い、実行委員会の事務局を市担当課から産業会へ移行した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
来場者数（人）	19,940.00	26,700.00	22,200.00	23,000.00	23,500.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	イベント開催時の天候（土曜日が雨天）により来場者が減少した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	企業と市民の交流の場として、開催しているイベントであるため、継続して支援する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	1,000	800	500	500	500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	500	500	500
	一般財源	1,000	800	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	646.00	504.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	2,649	2,066	0	0
トータルコスト		1,000	3,449	2,566	500	500

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		守谷ハーフマラソン開催補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間	昭和59年度～
	施策	集客資源の創出と充実		種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100501-08 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
マラソン大会を通じて新旧住民の親睦を図り、守谷市の知名度を高めるため、昭和59年から実施している。	毎年2月上旬に開催しており、ハーフマラソン・5km・3km・2kmの男女年代別の種目を設定し健脚を競い合う。 ハーフマラソンについては、日本陸上競技連盟公認コースで茨城陸上競技協会の公認大会となっており、大会は守谷市体育協会が主催し、市からの補助金のほか、参加費及び企業協賛等により実施している。 大会運営の係員は約800名で、体育協会会員や市民ボランティア等の協力を得ている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
守谷ハーフマラソンに多くの人に参加してもらうことで、幅広い年齢層の人々の健康増進をもたらすとともに、全国からの参加者に守谷市のすばらしさをPRする。 また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいの創出に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・大会の募集がここ数年で早くなっているために、参加者への周知を早める必要がある。 ・他の大会を参考にしながら、ランナーが参加しやすい環境は何かを見いだす必要がある。 ・大会を支えるボランティアを確保する必要がある。	6月 大会概要決定 10月 募集開始 1月 事前送付 2月 事業実施 3月 事業報告
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・大会ホームページの活用と、前回参加者へのダイレクトメールなどにより集客の確保を図る。 ・ランナーの利便性を図り、当日の受付処理を廃止することにより、ランナーが時間に余裕をもって参加することができる。 ・ホームページや広報を活用し、大会のボランティアを募集する。そのボランティアには今後も大会の運営に関わっていただけるよう、常にスポーツ関連事業に関し発信する必要がある。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	今大会で500円値上げしたことにより、高校生以上が4500円、小中学生が2500円となった。 大会の運営としては、参加者負担金で賄うのが筋ではあるが、ハーフマラソンを中心とした種目では限界の参加費になっている。特に小中学生の参加費が2500円となっていることについては、今後の消費税導入後の参加費増額を避けるためにも増加の方向である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
現在の参加費（高校生以上4,000円，小・中学生2,000円）で運営していくことができるかが課題であり，参加者に対する利便性を向上させるためには，一定の経費が必要である。	・参加費を一律500円上げ（高校生以上4,500円，小・中学生2,500円），ナンバーカード，参加賞（Tシャツ）を含め全てを事前送付にすることで参加者の利便性を図るとともに，当日の受付事務量を削減した。 ・引き続き，大会専用ホームページで情報発信に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
参加申込者数のうち完走者数（人）	5,160.00	5,168.00	4,727.00	5,300.00	5,300.00
市内参加申込者数のうち完走者数（人）	1,821.00	1,728.00	1,669.00	2,000.00	2,000.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下		参加賞を含め全てを事前送付にした点，荷物預りの規則をランナー側の意見をもとに改善したことで，ランナーの利便性が大幅に向上した。課題としては，現在のゴミ処理方法が多くの人員・時間を要する点がある。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了		今後も参加者及び運営ボランティアの意見をもとに，参加者の利便性向上・両者の負担軽減を目指して取り組んでいく必要がある。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,000	2,000	2,000	3,000	3,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,000	3,000	3,000
	一般財源	2,000	2,000	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	2,468.00	1,941.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	10,119	7,958	0	0
トータルコスト		2,000	12,119	9,958	3,000	3,000